

## スペリア佐屋の防災について-3

### 6 スペリア佐屋の実態

- (1) 2005年に「姉齒事件」が発生し、多くのビルやマンションが強度不足のため建て替え工事が行われたことがあります。

スペリア佐屋も一級建築士に構造検査を依頼した結果、建物全体の計算にも全て整合性があり、平均IS値は1.117と判断され現在の構造基準では1.0以上が必要で、基準を満たしていることが判明しました。

- (2) スペリア周辺は、1~2万年前は水が流れており、木曽川等の土砂が堆積して平野になった場所と言われており、地盤は決して良好とは言えません。

したがって、建物の基礎は直径0.9m~2mのコンクリート柱が50m前後の深さに70本前後埋めて建物を支える施工となっています。

阪神・淡路大震災では、多くのマンションも倒壊しましたが、「日本建築学会」が地震と建物について次のようにまとめ公表されております。

[http://www.aii.or.jp/jpn/seismi/lecture/index\\_s.htm](http://www.aii.or.jp/jpn/seismi/lecture/index_s.htm)

- (3) 昭和30年代の佐屋町(旧)の水源は、各集落(大字)単位で井戸から配水して利用しておりましたが、岩屋ダム(岐阜県・下呂市)の完成により当地域も愛知県から給水を受けることになりました。

岩屋ダム管理事務所サイト

<http://www.water.go.jp/chubu/iwaya/>

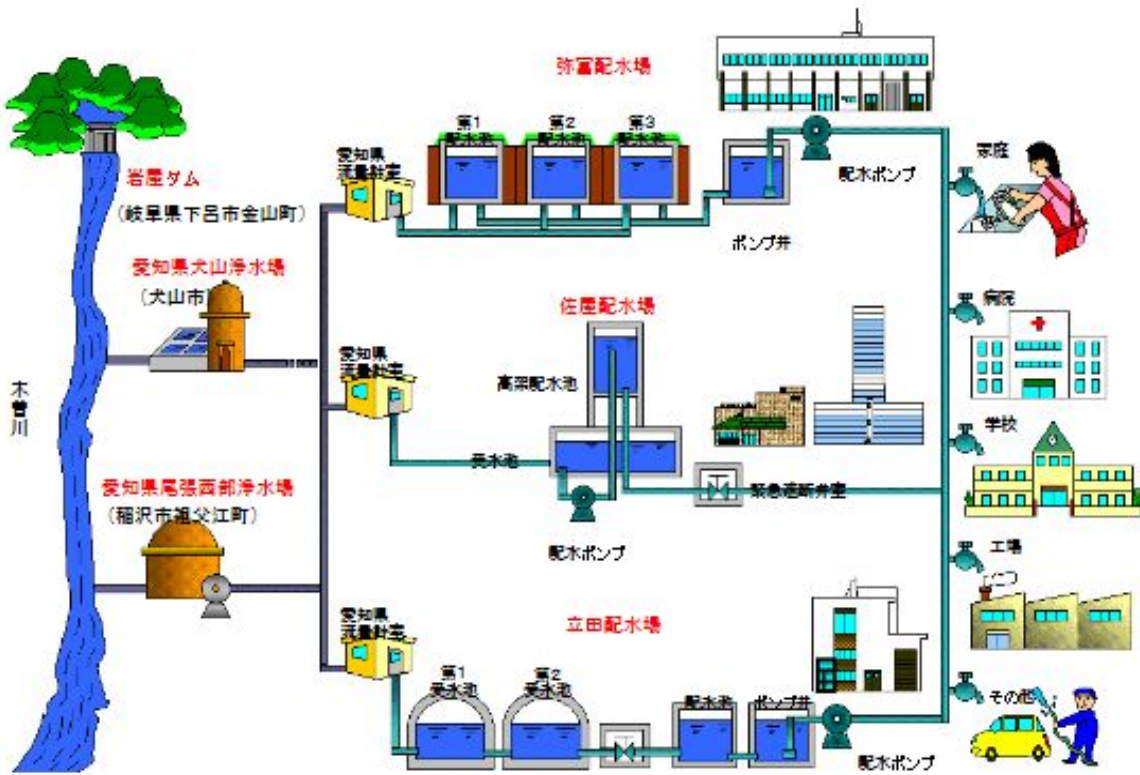
水の使用については昔から「水利権」があり、木曽川の水を全て使うことは出来ず、岩屋ダムが放出する水量だけを「水資源機構」が管理し、私たちが購入しているわけです。

なお、当地方は岩屋ダムから放出された水は馬瀬川、飛騨川から木曽川と合流し、犬山と祖父江町の馬飼大橋で取水・浄化されて配水され、当地域には東名阪道の弥富インター付近の高架配水塔にポンプアップされ、落差により水道管で配水され届きます。



弥富インター付近の配水塔

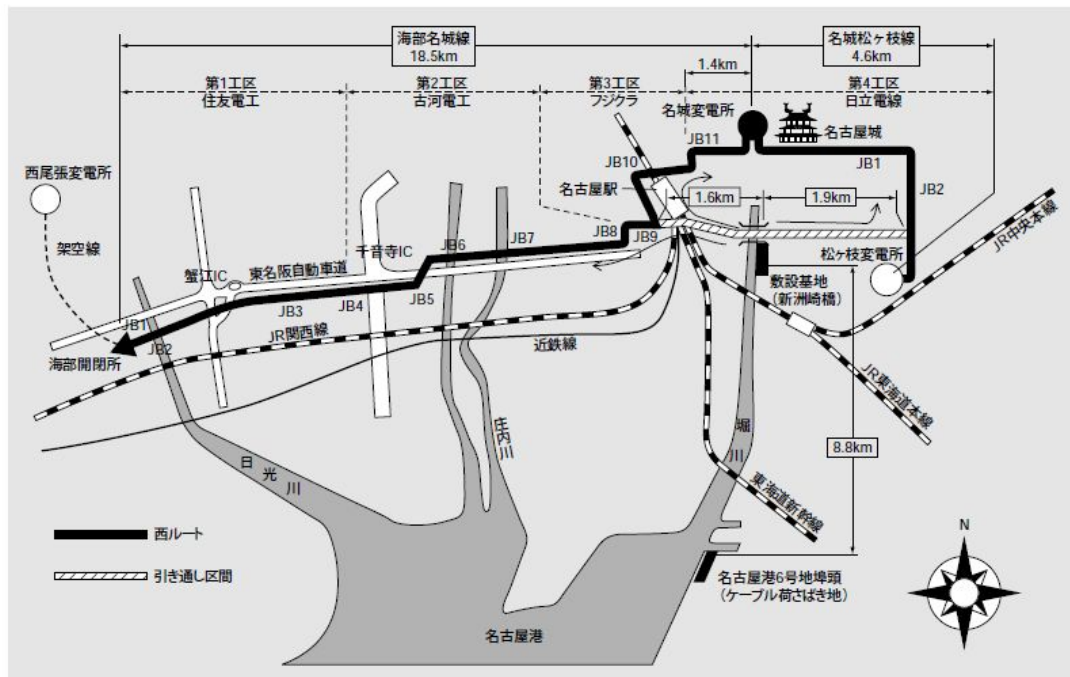
海部南部水道企業団水の流れ



水栓までの配水方法

- (4) スイッチを入れれば明るくなり、エアコンも炊飯器も当たり前のように使っている電気は次のようになっているものと思われます。

中部電力株式会社海部松ヶ枝線275kV CSZVケーブル工事



まず、名古屋港付近の火力発電所で発電された電気は、地下ケーブルで名城変電所へ送られます。

名城変電所は文字通り名古屋城の地下に造られており、電圧を下げ各地に配電されており次のサイトの説明を見ると解ります。

<http://www.chuden.co.jp/kids/ecoland/electric/report04.html>

名城変電所からは地下ケーブルで途中まで送電され、途中から架空線で袖木町の佐屋変電所に送られ、6,600ボルトに降圧して送電されます。

一般の住宅や商店等には柱上変圧器で110ボルトや220ボルトに下げ、住戸のメーターを経て使用することができます。

しかし、スペリアは玄関側と駐車場側の2ヶ所から高圧線を引き込み、電気室で降圧して各住戸に配電されておりますが、電気室内の諸設備は電力会社の資産です。

なお、2ヶ所からの引き込みは送電線に万一の場合に備えての設備かと思われそうですが、佐屋変電所が故障した場合は停電になります。



玄関側引き込み柱



駐車場側引き込み柱

- (5) インターネット回線は、NTTの局舎から光ケーブルでスペリア内の引き込まれており、機器で1本の光ケーブルを数戸に分け従来からの電話線(銅線)で各契約住戸に送られ使用できますが、ウィクデーの昼間の回線速度は早くても、夜間や休日に少々遅く感じるのは数戸で共用しているからです。

なお、他社はマンションに引き込んである光ケーブルを賃借して営業しております。

光回線を契約している住戸の電話は、停電の場合は使用することができません。

災害が発生すると固定電話の使用が制限されますが、管理員室の電話は制限の対象にはなっておりません。

- (6) プロパンガス、ケーブルテレビや衛星放送については省略します。